日本体育大学紀要（Bull. of Nippon Sport Sci. Univ.），49，1089–1098，2020

【原著論文】

フィリピン英語の語彙の意味特徴について：認知意味論に基づいた意味分析

山口　和之

日本体育大学基礎教養系

On semantic nature of lexicon in Philippine English: The Cognitive Semantic approach

YAMAGUCHI Kazuyuki

Abstract: This paper aims to reveal semantic nature of Asian Englishes, and as a case study, will choose Philippine English. Through our observation of this English, we will reveal some nature of semantics found in the lexicon of Philippine English, hoping that our findings will also reveal some semantic nature of Asian Englishes in general. The reason for our special attention to Philippine English among other Asian Englishes is relatively practical: we have more and more opportunities to talk with Philippine people in Japan (as well as in Philippines), and the language for our communication would be English, their second language in Philippines. This paper will attempt to reveal some nature of lexical polysemy found in Philippine English, hoping to make contribution for removing obstacles of communication between Philippine English speakers and other speakers.

要旨：本稿の目的はアジア英語の意味特徴を明らかにする点にあり，ケーススタディとしてフィリピン英語を考察する。本稿では，当該英語の語彙の意味特徴を明らかにし，それがアジア英語全体の意味特徴を解明する礎となることを目指す。アジアでの土着英語の中でもフィリピン英語に着目したのは，当該英語が益々日本では重要になってきている，という実用的なものである。日本およびフィリピンで，日本人がフィリピン人と英語で話す機会はますます増えており，そのさい使用される言語は英語であろう。本研究はフィリピン英語の多義語の意味拡張パターンの解明を目指している。フィリピン英語話者とそれ以外の英語話者との相互理解を妨げる言語的障がいを可能な限り取り除くことも本研究の目的の一つである。

(Received: October 4, 2019 Accepted: January 27, 2020)

Key words: Philippine English, lexicon, semantic nature, local English, polysemy

キーワード：フィリピン英語，語彙，意味特徴，土着英語，多義語

1. 緒　　言

21 世紀は「国際コラボレーションの時代」である（本名 2012: 10）[1]。それに伴い，国際共通語としての英語が人々のコミュニケーション手段としてますます重要になってきている[注1)注2)]。世界的な問題―政治，経済，地球温暖化，難民問題など―を母語の異なる人々で議論することが当たり前の現代社会において，意思疎通を図るための共通言語がこれまで以上に必要となるのは当然であろう[注3)]。共通の言語としての英語は，国際英語（English as an International），国際補助英語（English as an International Auxiliary Language），国際共通英語（English as a Lingua Franca）などと呼ばれてきた。本稿では「国際英語」と呼ぶが，当該英語は，話者により発音・語彙・文法・語用論のレベルで異なり，同質の英語ではない。

本名（2003: 14）[2] によると，英語は現在他言語にない 2 つの独特な特徴―国際化と多様化―を持つ。「国際化」に目を向けてみよう。世界 193 ヶ国のうち，英語を実質的に公用語にしているところは 50 ヶ国，通用語とする国は 20 ヶ国となり，英語は 70 ヶ国（約 36%）で大きな役割をはたしている。「英語 2000 プロジェクト」（ブリティッシュ・カウンシル）によると，英語を公用語とする国に暮らす人々の数は 14 億をこえる。

世界人口の５人に１人が，ある程度の英語運用能力を有する。次に，別の国際英語の特徴である「多様化」を考えてみよう。言語変化の歴史を考えると，別地域で同一言語が使用されると，その元の形や意味を変えるのが常である。例えば，ラテン語が別地域で使用されるようになると，形や意味が時間と共に変化し，最初はラテン語の方言に，そしてその後フランス語，スペイン語，ポルトガル語，イタリア語，ルーマニア語などの別の言語に変化して今日に至っている。言語は変化するのが普通であり，変化がない，ということは（人為的な操作がない場合）通常あり得ないのである。英語も世界にある約 6000 もの言語の１つであるから，当然そのような言語変化の対象となる。同じ英語であっても，東南アジアの英語を公用語とする国の英語，例えばインド英語，マレーシア英語，シンガポール英語，フィリピン英語などは，英米語とは異なる。こうして多くの英語が世界に生まれた。これらの英語は「世界諸英語」（World Englishes）と呼ばれる。Englishes と複数であることに注意してほしい。世界諸英語は，英米語を標準英語（Standard English）と見なし，それをモデルとして拡散するわけだが，それが使用される土地の文化を吸い込み，土着化が起こり，独特の英語へと変化した。土着化した英語を本稿では「土着英語」と呼ぶ。

英語の「国際化」と「多様化」は問題を生み出す。共通の言語を世界が必要とし，多くの土着英語が生まれたわけであるが，それが異なる土着英語話者間の相互理解の障がいになる，という矛盾を生みだす。つまり，「英語」という同ラベルが付いた言語であるにもかかわらず，その違いは大きくなり（例えば，シングリッシュ，マングリッシュ，タグリッシュ），異なる英語を使用する者同士の相互理解が徐々に困難になっているのである。

ここまでの議論からわかるように，本稿では，「国際英語」と「国際諸英語」の区別を厳密にはしていない。理想的には，国際英語は土着化していない，つまり異なる英語変種を話す話者間の相互理解に何ら問題が生じない，国際的に統一された英語なのかもしれないが，現実的にはそのような英語は存在しない。土着英語の発音，文法，語彙の選択などは，いかなる英語を話す際も抜けることはないのである。この理由により，本稿では「国際英語」と「国際諸英語」の区別を厳密には行わない。

1.1.　３つの英語（話者）のカテゴリー

B. Kachru（1985: 12-5）[3] は，英語変種を表１の３つのグループに分ける。

表１　英語国の３つの異なる圏

1. 内部圏（Inner Circle）　英語を母語とする国
イギリス，アメリカ，カナダ，オーストラリア，ニュージーランドなど
2. 外部圏（Outer Circle）　英語を第２外国語または公用語とする国
インド，シンガポール，ナイジェリア，フィリピンなど
3. 拡張圏（Expanding Circle）　英語を外国語として使用する国
ヨーロッパ，アジア，南米など

以下，内部圏の母語としての英語を ENL（English as a Native Language），外部圏の第２外国語または公用語としての英語を ESL（English as a Second Language），そして拡張圏の外国語としての英語を EFL（English as a Foreign Language）とする。

1.2.　土着英語の特徴

土着英語に関する先行研究の多くが（説明の便宜上）対象英語の特徴をいくつかのカテゴリーに分け議論を進めている。典型的な分類としては，「発音」・「語彙」・「文法」そして「語用論的特徴（社会言語学（ディスコース）的特徴を含む）」のようなもので，それに基づいて標準英語との違いを論じている。

本稿の研究対象は，標準英語とは異なる土着英語の語彙の意味である。特に語彙の意味拡張パターンに焦点を当てる。語彙に着目する理由は二点ある。

１点目。土着英語の発音・文法と比較し，その語彙の使用・意味は異なる土着英語話者の相互理解の最も大きな障壁となる，と考える理由が（以下で詳述するように）ある。すぐに反論があるかもしれない。発音は土着英語間でかなり異なっているのではないか。これが正しくはないことは，ESL 話者の発音が ENL 話者に十分理解可能であることを示す研究からも明らかである（以下の議論参照）。２点目。ESL, EFL の発音，文法そして語用論的特徴の背後にある規則の説明は先行研究においてある程度なされてきた感があるが，土着化英語の語彙の使用・意味の背後にある規則に関して先行研究ではほとんど議論されてはいない。

これまでの議論により，本研究の目的およびその意義が明らかになる。英語の拡散，多様化により，国際英語を通してのコミュニケーションに障がいが生じる可能性があり，その理由として最たるものが語彙に関するものと考えられる。本稿の主目的は，土着英語の語彙の多義性の特徴を明らかにすること，そして異なる土着英語話者の相互理解を妨げる障がいをできうる限り取り除くことにある。

上記目的のため，研究対象となる英語を絞り，可能な限り詳細に分析をする必要があろう。そのため，本

稿では，アジア英語に注目し，その中からケーススタディとしてフィリピン英語を対象英語とする。アジア英語に焦点を当てる理由は，「日本人も国内外で，英語をアメリカ人やイギリス人とよりも，アジアの人々と使うほうがずっと多くなって」(本名 2002: 4)[4]おり，アジアでの土着英語を理解する必要がますます増える，という実用的なものである。そしてフィリピン英語を対象言語としたのは，フィリピンがアジアの国であり，英語がそこで公用語として広く使用されているためである。但し，本論文の主張は，フィリピン英語やアジアの英語だけに限定されるものではなく，英語変種全般に関わる主張であることをここに明記しておく。

2. アジアの英語について

英語はアジアにおいてきわめて重要な言語になっている。アジアの英語人口は 8 億ともいわれ，英米の合計人口をはるかに超える。そして，日本の輸出入の規模はアジアが最大で，次に米国，そして欧州連合と続く。日本企業はほぼ 6 万社を超える海外拠点を持っており，その大多数はアジアに集中している（本名 2002: 5-6）[4]。

2.1. フィリピン英語について

アジアの国々を国際英語という視点から眺めるとき，フィリピンはとりわけ重要な国となる。フィリピンは，ルソン島・ヴィサヤス諸島・ミンダナオ島を中心に，7000 以上の島々からなる国である。

フィリピンの歴史を簡単に振り返ると，16 世紀以前は，国家と呼べるような政治体制は存在せず，バランガイと呼ばれた集落が各地に散在していただけである。16 世紀からスペイン支配がはじまり，その支配が 333 年（1565–1898）続き，カトリックに代表されるスペイン文化が広まる。そして 20 世紀初頭からは，アメリカの植民地になり，それが終了する 1946 年まで，無償の公教育制度や民主主義の理念が取り入れられる。アメリカの植民地化で特記すべきは，英語の広がりだろう。スペイン支配終了時にスペイン語はフィリピン人口のたった 2％しか習得していなかったのに対し，英語は，1939 年にはフィリピンの人口の 26.60％に，その後は 36.05％にまで広がった。その後英語はさらに広がり，フィリピンの文化と融合し，独特の英語が生まれた（Dayag 2012: 91）[5]。

言語はマレー諸語の一部で 100 以上あると言われ，お互いの意思疎通が困難なほど異なっている。公用語は英語とフィリピノ語である。フィリピンの英語話者の数は，アジアで第一位である，とフィリピン人は自慢する（本名　2002）[2]。多くは，バイリンガルではなく，少なくともトリリンガル（trilingual）で，家，学校・職場などで使い分ける。

3. 異なる土着英語間でのコミュニケーションについて

国際諸英語に関する先行研究の多くは，土着英語の特徴をいくつかの言語特徴（カテゴリー）に分け議論を進めている。典型的な分類としては，「発音」，「語彙」，「文法」，「語用論」のようなもので，それに基づいて ENL との違いを論じており，フィリピン英語に関しても例外ではない。ここで強調したいのは，上記に記した言語特徴は確かに非フィリピン英語話者との会話において相互理解の障がいとなり得るが，「語彙」以外は大きな問題にはならない，という点である。

フィリピン英語の発音を考えてみよう。母音の特徴としては，/a/ の下位区分がないので，たとえは，‘rat’，‘ham’ の母音は ‘father’ と同じ母音として発音される（本名 2006: 100）[6]。また弱母音がないが，これは音節拍であることが理由であろう（インド英語や日本人英語も同様である）。子音に関しては，/s/ は /s/，/z/ 両方に使用する（e.g. ‘sink’，‘zinc’）。/th/ の音が /t/ もしくは /d/ で発音される。また /f/ が苦手で，/p/ となる人がいる（What fart[part] of Japan are you prom [from]? など）（本名 2006: 101）[6]。

興味深いのは，これらの違いに関わらず，フィリピン英語発音は，ここ 30 年の研究によると，国際的に全く理解の障がいにはならない，という事実である（Dayag 2012[5]，Smith and Rafiqzad 1979[7]，Smith 1992[8]）。Dayag（2012）[5] の実験―英文原稿をフィリピン人話者が読み，それを ENL 話者がどの程度理解可能か―は，ほとんどの場合，フィリピン英語の発音が標準英語話者の理解を妨げないことを示している。スリランカ，インド，日本，マレーシア，ネパールそして韓国などの他のアジア英語も同様であると Dayag（2012: 93）[5] は主張する。但し，上記主張が他の ESL，EFL 話者にも当てはまる，と短絡的に結論づけるわけにはいかない。例えば，Tsuzuki and Nakamura（2007）[9] は，日本人の英語発音がある程度しか通じないことを示し，日本の英語教育における発音教育の重要性を主張する。

次にフィリピン英語の文法を考えてみる。以下は Dayag（2012: 96）[5]，Aramburo（1970）[10] に基づく。

（1）フィリピン英語の文法特徴

（a）主語と動詞の呼応関係の欠如（<u>The teacher</u>, along with her students, <u>were</u> in the library yesterday.）

（b）時制と相の不適切な使用（I <u>had not gone</u> to classes <u>yesterday</u>.）

(c) 助動詞の使用(The students could not understand why they will have to come to school on Sunday.)
(d) 群動詞の前置詞，副詞の誤使用：based from (=based on) ～に基づく，cope up with (=cope with) 対処する，fill up (=fill in) 記入する，など。
(e) 自動詞・他動詞の混同：discuss about など。
(f) 動詞の意味の単純化：bring と take および go と come の意味に含まれる方向性がなくなり，同じ意味で使用される。
(g) 副詞（句）の位置（I have already finished the job. 標準英語では，I have finished the job already. のように語末に置く。）
(h) 代名詞の混同
Jose is kind to us. She is a good boy.（タガログ語で人を示す代名詞には男性女性の区別がないことが原因だろう）
(i) 否定疑問文に対して，yes/no を日本式に答える。
You don't want to go?（行きたくないの？）Yes. I don't want to go.（うん，行きたくない）
(j) 品詞の理解不足
Why did the landlord higher the rent?（Why did the landlord raise the rent. 形容詞を動詞として使用）

上記のフィリピン英語の土着文法は，それ以外の英語話者との相互理解には，ほとんど影響がないと考えられる。また，社会言語学，語用論的特徴として，本名（2006: 105）[6] は「フィリピン人の人間関係では，謙譲と尊敬の美徳」の重要性を挙げ，他人の自尊心を傷つけない表現が好まれるとしている。例えば，知らない人に道を聞くときには，Excuse me, may I ask you a question? と表現するのが良いそうである。また上記の理由で間接的表現も好まれる。このような特異性は，非フィリピン英語話者との会話において相互理解には影響はないと思われる。

ここまで，フィリピン英語の発音，文法そして語用論的特徴を考えてきたが，それらは他の土着英語話者とのコミュニケーションにおいて相互理解を大きく阻害する要因にはならないことを確認してきた。以下では，フィリピン英語の「土着語彙」を詳細に議論し，この特徴がコミュニケーションの最も大きな障がいとなる，と主張する。

3.1. フィリピン英語の語彙に関して

フィリピン英語の土着語彙を ENL 話者はどの程度理解できるのであろうか。理解度に関わるスケールに着目すると，語彙に関わる特徴を一括りにすることはできず，いくつかのグループに分けて考える必要があることがわかる。(2) の ENL とは異なる品詞の使用は，実際の言語使用（具体的なコンテキスト）においてそれほど相互理解の妨げになるとは考えられない（以下本名 2006: 104[6]；本名他 2018[11]；Dayag 2012: 94[5] 参照）。以下，ENL とは異なる品詞での使用例をいくつか挙げる。

【ENL とは異なる品詞での使用】
(2) (a) actualize（<-actual） 現実化する
(b) concretize（<-concrete） 具体例を示す
(c) consientize 社会状況を意識させる

また (3) も (2) 同様，実際の言語使用（具体的なコンテキスト）において ENL 話者の相互理解の妨げになるとは考えられない。

【造語Ⅰ】
(3) (a) awardee 奨学金などを授与された人
(b) honoree 名誉を授与された人
(c) mentee 生徒
(d) Octoberian 十月に卒業する人
(e) reelectionist 再選を果たした人
(f) rallysit 労働者の集会を組織する人
(g) holdupper 強盗
(h) studentry 学生層
(i) presidentiable 有望な大統領候補

(4) のような造語Ⅱは，(2) (3) と比べると意味が取りにくいかもしれないが，一度その意味を確認すれば納得のいく表現であり，その後の相互理解の妨げにならないであろう。

【造語Ⅱ】
(4) (a) accident prone 危険な
(b) air-con エアコン（=air conditioning, air conditioner）
(c) captain-ball（=the captain of a basketball or volleyball team） バスケットボール（バレーボール）チームのキャプテン
(d) comfort room トイレ
(e) color (number) coding 車両通行規制（マニラ首都圏で実施されているナンバープレート末尾による）
(f) carnap 車を盗むこと
(g) buy one take one 「1つ買うともう1つ無料」
(h) come again （電話で）「もう一度お願いします。」（英米英語は Please repeat what you

have said）

（i）eat-all-you-can　食べ放題（=all-you-can-eat）

それに対して，頭字語，借用語は学習なしには意味が推測できないであろう。

【頭字語】

（5）（a）ADMU　Ateneo de Manila University　アテネオ・デ・マニラ大学

（b）AFP　Armed Forces of the Philippines　フィリピン国軍

（c）ARMM　Autonomous Region in Muslim Mindanao　ムスリム・ミンダナオ自治区

（d）BI　Bureau of Immigration　移民局

（e）BIR　Bureau of Internal Revenue　内国歳入庁

（f）Cha-Cha　Charter Change　憲法改正

（g）DFA　Department of Foreign Affairs　外務省

（h）DH　domestic helper　メイド，家政婦として海外で働く人

（i）DLSU　De La Salle University　デラサール大学

（j）DOJ　Department of Justice　法務省

（k）DOST　Department of Science and Technology　科学技術省

（l）DTI　Department of Trade and Industry　貿易産業省

【借用語】（以下，本名他（2018））[注4)]

（6）（a）abaca（マニラ麻）

（b）aggrupation（Sp. agrupatcion）集団，グループ

（c）albularyo　（フィリピンの伝統的な）療法士

（d）arroz caldo　チキン入りお粥

（e）alto　びっくりパーティ

（f）ate　姉さん（年上の女性に対する呼称）

（g）bahala na（originally from Sanskrit）　なるようになる，なんとかなる

（h）balikbayan（balik（=return））　海外から帰国したフィリピン人

（i）balut　孵化直前のアヒルのゆでたまご

（j）banca　小舟

（k）bangus　サバヒー（milk fish）

（l）baon　通勤・通学に必要なお金，食料，その他（=provision）

（m）barangay（舟）　フィリピン最小行政単位

（n）barkada　親友

3.1.1.　意味拡張について

上記の（2）（3）そして（4）のケースは，（少なくとも ENL 話者にとっては）当該語彙（句）の基本的な意味から，それが意図する意味を理解することができ，コミュニケーションの障がいにはならないであろう。それに対し，（5）（6）は，学習なしには語彙（句）の意味が推測できない。会話の中では相手に聞き，（例えば，What is‘abaca’?）確認をすることでコミュニケーションが成立をする。

語彙に関して誤解を生みだす最たるものの１つは，以下のような多義語の例と考えることができるのではないだろうか。

【多義語】

（7）（a）advanced　（英米語では fast　時計などが進んでいる）

（b）American　白人の（国籍に関係なく）I saw many Americans at Mall of Asia.

（c）Americana　スーツ，ネクタイ着用の正装のこと

（d）Bisaya（Visaya）ビサヤ語（地域）　田舎者

（e）blow-out　おごり（自分の誕生日会やゲストとの会食時に）

（f）blue seal　輸入品（特にたばこ）

（g）bold　（映画・雑誌などで肌の露出度が高い）成人向け（adult）bomba（ポルノ）

（h）Bombay　インド系フィリピン人（インド系の総称）

（i）brownout（=blackout）

（j）chancing　（公共の場などで）偶然を装って女性の体に触れること

（k）city folk　都市型の人（外国人のように）体格が良く，英語を話し，高学歴で経済的に豊かな生活を送る人

（l）colgate（歯磨き）商標名？（シネ）コルゲート（米国商標）

（m）cowboy　陽気で楽しい人

（n）crony　政治家のいかがわしい取り巻き連中

（7）のそれぞれの具体例の基本的意味は ENL 話者と共通であろう。問題はそこから派生している意味が「土着化している」点である。本論の目的の一つは，このような土着化した意味の理解を助ける「意味のルール」を提案することにある。

3.1.2.　問題解決に向けて：意味拡張のメカニズム

（7）に関する問題を解決すべく，本稿では認知言語学に基づき，当該語彙の分析を行う。まず，多義語に

は「プロトタイプ」と呼ばれる中心的意味がある。多義語の複数の意義においてプロトタイプは以下の点において特別な意味となる（瀬戸他 2007: 4）[12]。

（8）（a）関連する他の意味の前提となる。
（b）具体性（身体性）が高い。
（c）認知されやすい。
（d）想起されやすい。
（e）用法上の制約を受けにくい。

図 1 は，プロトタイプを中心とした多義ネットワークである。

プロトタイプからの意味派生パターンは以下のように想定する。

【プロトタイプからの意味変化のメカニズム】
（9）（a）メタファー（metaphor 隠喩）
（b）メトニミー（metonymy 換喩）
（c）シネクドキー（synecdoche 提喩）

メタファー，メトニミー，シネクドキーの分類は，多くの（認知言語学の）先行研究の知見に基づいているが，中でも『多義ネットワーク辞典』の分析に多くを負っている（Lakoff and Johnson（1980[13], 1999[14]）；谷口（2003）[15]；松本（2003）[16]；籾山（2010）[17] なども参照）。

メタファーとは，「2 つの事物・概念の何らかの類似性に基づいて，一方の事物概念を表す形式を用いて，他方の事物・概念を表す比喩」（籾山 2010）[17] である。例えば，neck の「人・動物などの首」というプロトタイプから「（瓶などの）首への変化，empty の「〈入れ物が〉空の」というプロトタイプから「〈人生が〉空の」への変化，attack の「〈人・場所を〉激しく攻撃する」というプロトタイプから「〈考え・思想を〉激しく攻撃する」への意味変化を挙げることができる。

メトニミーは，「2 つの事物の外界における隣接性，さらに広く 2 つの事物・概念の思考内，概念上の関連性に基づいて，一方の事物・概念を表す形式を用いて，他方の事物・概念を表す比喩」（同上）である。例えば，「あそこの長髪は運動神経が良さそうだ」という文の「長髪」は，一部を使って全体を表しているメトニミーの例である。

シネクドキーは「より一般的な意味を持つ形式を用いて，より特殊な意味を表す，あるいは逆により特殊な意味をもつ形式を用いて，より一般的な意味を表す比喩」（同上）である。例えば，「人はパンのみで生きるにあらず」の「パン」は種で食事（類）を表す。それとは逆に，「花見」は「花」という類を使い，種（桜）を表す。類似した例としては，「天気になる」の「天気」（良いという意味）や「おめでた」という類概念表現が「妊娠」という「種」を表すようなケースである。

上記の多義ネットワークに基づいて，表 2 のフィリピン英語の多義性を分析する（以下本名他 2018）[11]。

まず，メタファーを見てみよう。advanced は，標準英語とは異なるコンテキストで使用されるが，コアのイメージは変わらない。これはメタファーの大切な特性の一つである。また標準英語でも「時間が前に進む」（e.g. The language varied from century to century as time advanced.）の意味で当該語を使用するので，「時間」と密接に関係する「時計」に誤って当該語の使用を拡大したのかもしれない。

次にメトニミーのケースを考えてみよう。Filipiniana は，「フィリピンの伝統衣装」というフィリピンの特徴の 1 部を種（フィリピン）で表す。Bombay は，インドの一部の場所を使い，全体を表している（Saudi も同様である）。go ahead「去る」は，「前に行ったことが原因で，そこからいなくなる結果を表す，つまり時

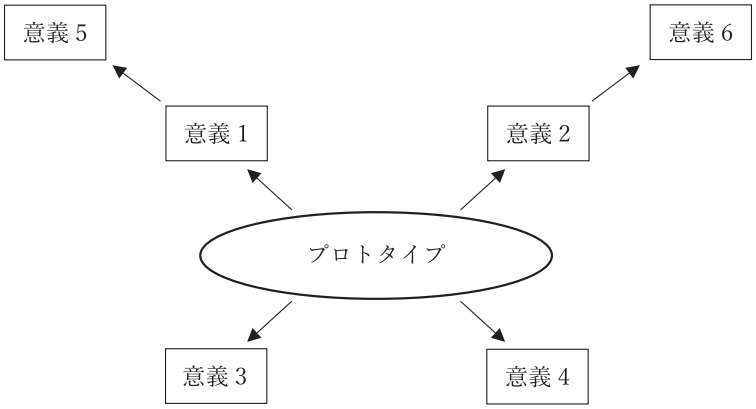

図 1　多義ネットワーク図

表 2　多義語の意味変化パターン

メタファー
● advanced（時計などが進んでいる） My watch is advanced. ● kill　壊れる Kill the television. / Kill the light.（Aramburo 1970: 6） ● open/close（=turn on/turn off の意味） Please open the engine.「車のエンジンをかけてください」
メトニミー
● blow-out　おごり（自分の誕生日会やゲストとの会食時に） We went with my friends for my birthday blow-out last night. ● Bombay　インド系フィリピン人（インド系の総称） A Bombay came here for daily collection of five-six.（five-six はフィリピンでは「高利貸し」の意） ● Filipiniana　（フォーマルな）伝統衣装 She is wearing a Filipiniana dress today. ● go ahead（=leave）　去る I have to go ahead because someone's waiting for me at home. ● high-blood（=upset, irritated）機嫌が悪い Why are you so high blood? ● inconvenience　協力 Thank you for your inconvenience.（ご協力ありがとうございます） ● motel　安宿 The motel was fully booked so I had to change my plan. ● Saudi　中東
シネクドキー
● chancing（公共の場などで）偶然を装って女性の体に触れること No chancing sir! I can see it. ● colgate（歯磨き）商標名？（シネ）コルゲート（米国商標） This colgate tastes like strawberry. ● crony　政治家のいかがわしい取り巻き連中 Marcos cronies expressed their support to Joseph Estrada. ● language　タガログ語（フィリピンのタガログ語以外の言語は dialect と呼ばれる） We have the language called Tagalog and so many dialects in the Philippines. ● go down（=get off a vehicle） I'll go down here. ● kodak　カメラ，写真（アメリカのコダック社より） Let's take kodak here. ● live-in　住み込みの，同棲 They are from province and work here as live-in. ● xerox　コピー（会社名より） Please xerox this document and submit it to this window by 4 pm.

間軸の隣接関係（原因と結果）を表す。high-blood（血圧が上がる＞機嫌が悪くなる？）も同様に原因と結果の関係で説明できる。motel は，「車で移動する際に宿泊する安宿」の一部の意味を表すように変化した。

次にシネクドキーであるが，メトニミーとの区別は容易ではないケースがあり，事実この二つを区別しない研究者もいる（例えば Lakoff 1987[18] など）。しかし，瀬戸の一連の研究にあるように，理論的には区別をする必要がある。例えば，メトニミーの部分と全体の関係（例えば，「長髪」は，一部を使って全体を表す。）はシネクドキーの類と種の関係（例えば，「人はパンのみで生きるにあらず」の「パン」は類で食事（種）を表す。）とは異なる。その違いを端的に言うと，メトニミーは空間・時間的な隣接関係，シネクドキーはカテゴリーとその成員の関係である。どちらも図で表すと，部分と全体の関係になるケースが多くあるが，前者は空間・時間領域における隣接関係，後者はカテゴリーとその成員の隣接関係であり，それゆえ，明らかに異なる関係であり，本稿ではこの区別をする。chancing は，類（偶然起こる出来事の総称）で種（その一つ）を，colgate は種（商標名）で類（歯磨き粉全て）を（kodak，xerox も同様の説明ができる），crony は類（いかがわしい連中）で種（特に政治家の世界）を，language は類で種（タガログ語）を live-in は類（住む）が，種（特定の住み方―同棲）となる。

3.1.3.　土着英語の語彙の多義性の理解に向けて

『多義ネットワーク辞典』（瀬戸 2007）[12] および認知意味論の多くの先行研究に従うと，プロトタイプからの派生パターンは，メタファー，メトニミーおよびシネクドキーの 3 つである。標準英語とは異なる，プロトタイプからの派生意味に直面した際，元の意味構造を保持していると（直観的に）感じた場合，それはメタファーの可能性が高い。プロトタイプのコアであろう意味を想起しながら，コンテキストおよび文の前後関係を読み込み，適切な意味を読み取る。上記とは異なり，派生意味がプロトタイプとの関連が見出しにくい場合，メタファーではなく，メトニミーもしくはシネクドキーの可能性が高い。つまり，2 つのもの・ことの空間・時間的（メトニミー）もしくは概念的（シネクドキー）隣接関係である可能性が高い。

3.1.4.　ステレオタイプについて

メタファー，メトニミーの中には，特にステレオタイプが意味変化の動機付けとなるケースも多い。

ステレオタイプとは,「あるカテゴリーの成員全般に関して，十分な根拠なしにある特徴を有すると広く信じてはいるが，実際にそのような特徴を有するのは，カテゴリーの成員の一部」（籾山 2010: 96）[17] のようなケースである。「お役所仕事だからしょうがない」と嘆くとき，「お役所仕事」には〈融通がきかない〉〈市民に対して不親切である〉〈非能率的である〉といった，（一部を除いて）事実とは異なる意味が含まれる。また,「今年の新入社員は子供ばかりで困る」と言ったとき，「子供」には〈自分勝手である〉〈思慮深くない〉〈礼儀知らずである〉といった意味が含まれる（同上: 97-100）[17]。

表 3 の多くは，メトニミーのケースと考えられる。例えば，American（白人）は，部分（アメリカ人の白人）が全体（国籍にかかわらず白人），Americana は，全体（アメリカ人）とその特性の一つ（フォーマルな場では正装），American time も同様の関係。Bisaya（Visaya）は，場所（全体）がその特性の一部（田舎者）を表す。上記の意味変化を考える際，それが客観的事実と合致する，とは必ずしも言えないことがわかる。話者の持つステレオタイプが強く影響しての意味変化であることがわかる。これはどの言語にもみられる現象であろう。例えば，motherly という副詞は，「母親らしい，優しい」という意味で使用されるが，全ての母親が優しいというわけではない。同様のことが上記の意味変化の例や，city folk，cowboy，dirty ice cream，dirty kitchen，duster，Filipino time にも言える。

ステレオタイプに基づく意味変化は，その方向性をはっきりと示している事実を読み取ることができる。米国に対しては良いイメージがあり（Americana「正装」，American time「正確な時間」，cowboy「陽気で楽しい人」），それに対してフィリピン，そこでの日常の生活は否定的な意味になる（Bisaya（地名））「田舎者」，dirty kitchen（日常用台所），duster（女性用のカジュアルな部屋着）。このことは未来の意味変化の方向を予測する。

表 3　ステレオタイプ

- American（国籍に関係なく）白人
  I saw many Americans at Mall of Asia.
- Americana　スーツ，ネクタイ着用の正装のこと
- American time　時間に正確な
- Bisaya（Visaya）ビサヤ語（地域）　田舎者
- city folk　都市型の人（外国人のように）体格が良く，英語を話し，高学歴で経済的に豊かな生活を送る人
- cowboy　陽気で楽しい人
- dirty ice cream　アイスキャンディー（行商人により路上販売されている）
- dirty kitchen　日常用台所（outdoor kitchen）
- duster　女性用のカジュアルな部屋着
- Filipino time　時間にルーズな（=not on time）
- monkey business　いかがわしい夜の仕事

4.　結論と今後の展望

グローバル化に伴い，特定の国，民族の枠を超え，英語は国際語になりつつある。そして国際英語は，他言語にない 2 つの独特な特徴―国際化と多様化―を持つようになり，多くの土着英語が生まれた。本稿では，アジア英語に注目し，その中からケーススタディとしてフィリピン英語を対象英語として，「語彙」の意味，特に多義語の意味特徴について論じてきた。アジアでの土着英語に着目したのは，それらの英語が益々日本では重要になってきている，という実用的なものであり，その中から，ケーススタディとしてフィリピン英語を対象言語としたのは，フィリピンでは英語が公用語として国内であまねく使用されているためである。但し，本論文の主張・目的は，アジアの英語やフィリピン英語だけに限定されるのではなく，土着英語全般を視野に入れている。

本研究は土着英語の「語彙」にある。特に標準英語とは異なる，多義語の意味拡張パターンに焦点を当て，フィリピン英語を通して国際諸英語の語彙の多義性の特徴を明らかにし，異なる英語話者の相互理解を妨げる障がいをできうる限り取り除くことがその目的の一つであった。

認知意味論の多くの先行研究によると，多義語は，複数の意味からなるネットワーク構造である。中心にプロトタイプがあり，そこからからメタファー，メトニミー，シネクドキーを通して意味が広がる。この知

見に従うと，土着英語の多義語の派生意味を理解するヒントが与えられる。異なる土着英語話者間で共通のプロトタイプと意味が重なると（直観的に）感じた場合，その派生意味はメタファーの可能性が高い。プロトタイプのコアであろう意味を想起しながら，コンテキストおよび文の前後関係を読み込み，適切な意味を読み取れば理解への道が開けるであろう。派生意味が，そうではない（プロトタイプとの関連が見出しにくい）場合，2つのもの・ことの空間・時間的隣接性（メトニミー）もしくは概念的（シネクドキー）部分・全体関係である。また，本研究は，当該土着英語の話者のステレオタイプの理解を深める可能性も示した。

注

注 1) 英語は，「世界の標準語としてゆるがぬ地位を確立しており，…」（『エコノミスト』 1996.12.21 版：39）[19]。

注 2) The Internet Society の調査によると，2006–7 年のインターネットの言語の約 80％は英語で，およそ 40 億人が英語を使用している（McCrum, 2010: 8-9）[20]。

注 3) 英語を国際語とするのに反対の立場もある。津田（1994）[21] は，日本での英語の広がりは日本人の「精神の自己植民地化」を推し進めるものであり，日本人のアイデンティティに否定的な影響を与えると主張する。

注 4) 本文で示した借用語のケース以外にも以下で示すような多くの例がある。多くはタガログ語からの借用である（tg. はタガログ語，sp. はスペイン語【からの借用を表す】）。

ano	tg. えーと
baron tag. baro	tg.（衣服）男性用のフォーマルな服
barong Tagalog	tg. 伝統的な男性の服
barrio	tg. 小さな村
bienvenida	sp. =welcome party
bolo	tg. 山刀
buco	tg. ヤング・ココナツ
bulalo	tg. 牛の足の煮込み
bundok	tg. 山
calamansi	tg. カラマンシー（日本の「すだち」に似ている）
calesa	sp. 2 輪馬車
camote	tg. サツマイモ
carabao	tg. 水牛
carinderia	sp. 食堂
chicharon	tg. 豚の皮を揚げたスナック，チチャロン
common tao	tg. tao は人　一般大衆
daw	tag. らしい
di ba?	tg. でしょ
encargado	sp. 管理人
estafa	sp. 詐欺（=fraud）
fiesta	sp. お祭り
guisado	sp. 炒め，ソテー
gulaman	tg.（海藻アガー）ゼリー
haciendero	sp. 地主
halo-halo	tg. フィリピン風かき氷
ilustrado	sp. 知識人，知識階層
inihaw	tg. 炭焼き料理
kangkon	tg. 空芯菜
kare-kare	tg. 牛のしっぽの煮込み
lang	tg. ～さ，～ね，～よ
lo-lo（lola）	tg. 祖父（祖母）
sari-sari store	tg. 雑貨屋
Sandiganbayan	tg. 公務員特別裁判所（Court of Appeals）

文　献

1) 本名信行（2012）企業・大学はグローバル人材をどう育てるか．アスク：東京.
2) 本名信行（2003）世界の英語を歩く．集英社新書：東京.
3) Kachru, B. B. (1985) Standards, codification and sociolinguistic realism: the English language in the outer circle. Quirk, R. & Widdowson, H. G. (Eds.) *English in the World*. Cambridge University Press: Cambridge. UK, pp. 11–30.
4) 本名信行（編著）（2002）アジア英語辞典．三省堂：東京.
5) Dayag, D, T. (2012) Philippine English. Ee-Ling Low and Azirah Hashim (Eds.) *English in Southeast Asia: Features, Policy and Language in use*. John Benjamin Publishing Company. Amsterdam/Philadelphia, pp. 90–99.
6) 本名信行（2006）英語はアジアを結ぶ．玉川大学出版部：東京.
7) Smith, L. E. and Rafiqzad, K. (1979) English for cross-cultural communication: The question of intelligibility. *TESOL Quarterly*, 13(3): pp. 371–380.
8) Smith, L. E. (1992) Spread of English and issues of intelligibility. B. B. Kachru (Ed.). *The Other Tongue: English across Cultures* (2nd edition). University of Illinois Press. Urbana-Champaign Illinois, USA, pp. 75–90.
9) Tsuzuki, M. and Nakamura, S. (2007) Intelligibility assessment of Japanese accents: A phonological study of science major students' speech. Thomas Hoffmann and Lucia Siebers (Eds.). *World Englishes—Problems, Properties and Prospects*. John Benjamin Publishing Company. Amsterdam/Philadelphia, pp. 239–264.
10) Aramburo, S. S. (1970) The English Errors of Filipino Studies: A Contrastive Analysis (Master Thesis). Fresno University: USA.
11) 本名信行（編著）（2018）新アジア英語辞典．三修社：東京.
12) 瀬戸賢一（編著）（2007）多義ネットワーク辞典．小学館：東京.
13) Lakoff, G. and Johnson, M. (1980) *Metaphors We Live*

by. The University of Chicago Press: Chicago.
14) Lakoff, G. and Johnson, M. (1999) *Philosophy in the Flesh: The Embodied Mind and its Challenges to Western Thought*. Basic Books: New York.
15) 谷口一美（2003）認知言語学の新展開―メタファーとメトニミー．研究社：東京.
16) 松本曜（編著）（2003）認知意味論．大修館：東京.
17) 籾山洋介（2010）認知言語学入門．研究社：東京.
18) Lakoff, G. (1987) *Women, Fire, and Dangerous Things*. University of Chicago Press: Chicago.
19) エコノミスト（1996［12.21 版］）．p. 39.
20) McCrum, Robert (2011) *Globish: How English Became the World's Language*. W. W. Norton & Company: New York.
21) 津田幸男（編著）（1994）英語支配への異論．第三書館：東京.

〈連絡先〉
著者名：山口和之
住　所：東京都世田谷区深沢 7-1-1
所　属：日本体育大学基礎教養系
E-mail アドレス：kazuyamaguchi@nittai.ac.jp